

## 国際会議報告

## AIC 2022 Sensing Colour 参加報告

## Report on AIC 2022 Sensing Colour

日高 杏子  
Kyoko Hidaka芝浦工業大学  
Shibaura Institute of Technology

## 1. AIC 2022 Toronto “Sensing Colour”

本記事は、2022年6月13日から16日に4日間開催された国際色彩学会(AIC Toronto)中間大会の参加報告である。この大会は全面オンライン開催だったが、幅広い色彩研究の発表と学術交流の場が提供された。実行委員会はカナダの色彩学会で、トロントにあるオンタリオ・カレッジ・オブ・アート&デザイン大学(通称OCAD大学)がホスト機関であった。OCAD大学は、カナダ最大級のアート・デザインの学校である。テーマは「Sensing Colour」で、公式ウェブサイトには、多様性の声明が掲げられ、「目的は、先住民や他人種のコミュニティの新たな理解を深め、多様な価値観を尊重すること」と宣言されている。近年、多様性とインクルージョン(包摂)は、全世界で達成すべき課題とされている。

## 2. 招待講演

テーマと多様性声明に基づいたアート、発達心理、生物、景観など多岐にわたる基調講演から、次の3名を特筆したい。

## 2.1. アノン・ミグワン・ビーム (Anong Migwans Beam)

ビーム氏は、オンタリオ美術館からの配信で「色を集める」というテーマで、自分自身の先住民としての背景や作品制作について語った。彼女は北米の先住民文化から生まれる顔料、場所の歴史、風景、水、記憶との関わりからインスピレーションを受けて制作された個性的な世界観の作品に関する解説をしていた。

## 2.2. アンヘリカ・ダス (Angélica Dass)

ダス氏はブラジル出身のアーティスト・写真家であり、「Humanae」という写真作品群で知られている。この作品群は、肌の色や文化的背景などに基づく差別を再考させることが目的で、膨大な肖像に肌の色に相当するPANTONE番号が記載されている。また、ワークショップ「Flesh Colour」では、自画像を水彩絵の具で描き、人種や「肌色」という概念を参加者たちに問い直した。

## 2.3. マイケル・マードック (Michael J. Murdoch)

マードック氏(ロチェスター工科大学マンセル研究所)によるペッパーズゴーストと複合現実についての演題では、マードック氏自身が画面で発表スライド上にホログラムのように出現する楽しい演出に加え、活発な質疑応答が行われた。ペッパーズ・ゴーストは、19世紀に発明された演劇用イリュージョンである。

## 3. セッション・口頭・ポスター

口頭発表とポスターはセッションAとBに分かれ、参加者は専用ポータルサイトから配信サイトへ接続することができた。日本からの発表者も全体的に多かった。

特別セッションとして、環境色彩設計研究会(ECD)主催「最近の書籍」が行われた。ここ3~4年(2019年後半~2022年)に出版された色彩と関連書籍5冊を著者自身が解説するイベントであった。今回の中間大会では、筆者は口頭研究発表1件と「色彩と建築物」セッションの座長を務め、「最近の書籍」イベントでは、2021年後半に上梓した小著について発表した。

## 4. 参加者として

この大会は、Pheedloopというイベント管理プラットフォームを使って運営された。参加者はポータルサイトから投稿やプロフィール登録、参加費の支払いもできた。参加費は200カナダドル(約20,000円)で、北米での国際会議としては手ごろな料金で交通費もかからないため、オンライン参加やハイブリッド参加の選択肢があることは、今後も望ましい。トロントと日本の時差が13時間で、日本時間深夜のセッション参加は睡魔との戦いだった。また、対面の懇親会と比べ、オンライン上での雑談も困難なため、新しい知人を得づらい面もある。だが2023年度は、6月にニューヨーク州ロチェスター工科大学で中間大会、11月から12月にかけて、タイ・チェンライで大会が開催予定で、これらは対面実施の可能性が高く、ポストコロナ時代の学術交流が見込まれる。